

身ぶり手ぶりで国際交流

留学生菓子作りに挑戦

米姉妹校の4人調理実習

米子高

米子高校（米子市橋本）に短期留学中の米国人生徒たちが11日、同校生徒と和洋の菓子作りに臨み、身ぶり手ぶりの国際交流を楽しんだ。



米子高校の生徒たちから大福の作り方を教わる留学生（中央）

来校したのは、姉妹校のカンザス州セント・トーマス・アクワイナス高校の生徒4人。5月下旬に来日し、同校で15日まで約3週間、数学など普通科目をはじめ陶芸、染色、書道などを学び、日本の文化に触れている。

留学生の人気科目という菓子作りの調理実習では、米子高校総合学科の2年生37人と一緒に、バナナカップケーキとフルーツ大福作りに挑戦。触れるのは初めてというあんを丸める作業に手間取ったが、同校の生徒たちにあんの詰め方などを教わり、次第に打ち解けた。

ローラ・レイノルズさん(18)は「皆で作ったからおいしい。日本人は親切で印象的」と喜び、大

福をほお張った。留学生さん(17)は「言葉が分かるの歴史を勉強して、留学の1人をホームステイでなくても、ジェスチャーに教えたいと思うように思いは伝わる。日本になった」と話した。